

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	東京大学
整理番号	A04
構 想 名	東京大学グローバルキャンパスモデルの構築

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） A	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
（コメント） 事業期間全体において、総合的教育改革と戦略的パートナーシップを両輪として、グローバルキャンパス構想の学内体制の整備が進められており、世界トップクラスの研究型総合大学にふさわしいものとなっている。 具体的には、世界的に顕著な実績と経験を持つ多様なリーダーから組織される GNB（グローバル・ナビゲーションボード）の設置により、グローバルな活動を行うための方策等について、総長に直接助言・提言を行う機能が整備されていることや、戦略的パートナーシップを中心とした国際展開が進展していることに加え、非英語圏の大学における教育と研究のあるべき将来像を具体化するためのその他各種取組等により、卓越性を備えた多様性の推進を掲げるグローバルキャンパスモデルを体現しているものと言える。 財政支援期間終了後を見据えた大学の国際化戦略においても、貴学の特色ある戦略的パートナーシップ大学プロジェクトを通じた資金獲得や基金立ち上げ等により実質化しており、今後の資金獲得モデルの波及も期待できる。 さらには、これまで抑制的であったジョイント・ディグリーや、ダブル・ディグリーのプログラム推進においても、積極的に関わっていくという方針が事後評価面接を通じて説明され、今後の推進に期待したい。 本事業における定量的な成果指標においては、高い目標値を設定していた側面もあり、事業期間最終年度の目標値を達成できていないものもあるが、全般的には質的にも着実にかつ十分な成果を上げており、今後の発展も期待できるとして上記の評価となっている。 一方、シラバスの英語化においては、中間評価でもその不十分性が指摘されたところではあるが、今回の事後評価においても同様に指摘がなされている。世界に対して、あるいは世界からの留学生に当該大学の魅力をより広く周知するためにも、授業カタログとしてウェブサイトで公開している英語化が進んでいない授業概要と合わせて、大学全体としての対応が望まれる。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	